

感想文の書き方のコツ

最初は、ノートに下書きをおこないます。感想文を書くための素材を集めるわけです。

ステップ1 物語の要約を書く。

「この物語は、～という話です。」という感じです。

教科書の物語文でしたら、だいたい、30文字以内またはノート2行以内です。

実際に夏休みに書く際は、読む本も長編のはずです。4行ぐらいでもかまいません。

このように、4行ぐらいにまとめることによって、だらだらと粗筋だけで1ページも2ページも書くことがなくなります。それだけで、感想文がしまったものになります。

ステップ2 気に入った所、おもしろかった所を写す。そして、その理由を書く。

この理由が、感想文として大切なところですよ。しっかり書いてください。

選ぶ箇所の長さは特に制限しませんが、理由の部分を選んだ箇所以上の量を書くことが条件になります。引用した部分の方が、地の文より長くなるということは研究論文では考えられないことだからです。

実際の本を読む時は、気に入った所やおもしろかった所をさがすために、ポストイットを持って本を読むのがいいでしょう。引用部分は、1カ所だけでなくもかまいません。2カ所あってもいいのです。

ステップ3 以前同じ体験をしたことあった場合、その時自分はどうしたか書く。ない場合は、もし、同じような体験したら、自分はどうするか書く。

実際の書きぶりとしては、次のようになるでしょう。

「そういえば、私にもこんな出来事がありました。」

「もし私が、この場面に出合わしたら…」

ステップ4 この本を読んで、わかったこと、気づいたこと、思ったこと、はてなを書く。

「わかったこと、気づいたこと、思ったこと、ハテナ」の部分は、「この本を読んで学んだこと・自分の考えが変わったこと」というように書いてもかまいません。

ここで気をつけることがあります。「わかったこと、気づいたこと、思ったこと、ハテナ」を書く場合、その4つをすべて書く必要はありません。もちろん、書いてもかまいません。また、書く順番も、この通りに書かないといけないというわけではありません。むしろ、簡単な方から書き出すのがコツなのです。つまり、「思ったこと、ハテナ。気づいたこと、わかったこと」の順番に書いていく方が書きやすいのです。

こう書くと、「わかったこと」から「これから自分は・・・」にもつなげやすくなるという利点もあります。

ステップ5 または、これから自分はどのようにしていくか（どう生きていくか）を書く。

「これからは、～というようにしていきたいです。」という感じで、感想文を閉めます。

これで、下準備は完了です。原稿用紙に向かいます。

ただし、必ずしも、下書きで書いた順番で書く必要はありません。

1, 2, 3, 4の通りでなくてもいいのです。むしろ、2から入った方が臨場感が出るというメリットもあります。いきなり物語の引用の部分からはいるパターンです。

そして、読んだ本の簡単な紹介をして、3に行くという形です。